

# 地域と協同の 研究センターNEWS

2020年6月25日発行  
190号

【特定非営利活動法人地域と協同の研究センター第20回通常総会報告】

## 第20回通常総会 開会挨拶

代表理事 西川幸城

私たち地域と協同の研究センターは「地域とはなにか、協同する・支え合うとはどういうことか、また何ができるのか」を会員が活動から学び合い実践へとつなげていく組織です。今年、法人化20周年・設立25周年を迎えました。10年後、安心して暮らし続けるために地域やコミュニティはどうあるべきかを皆さんと一緒に研究しあいたいと思います。

一方、昨今の情勢で社会や経済、私たちの暮らしが大きく変化したことがあります。それは新型コロナウイルスの問題です。地域では新しいつながりと実践が生まれています。事例をもとにご紹介します。

最初は「フードパントリー」の実践です。フードパントリーとは食料を無料で配布する地域の拠点を指します。学校が休校となり、子ども食堂を運営してきた施設を借りることができなくなりました。そうした中、子どもたちと接する場をどうつくるかを考え、企業や団体、市民が様々な食料を提供し、子どもたちやその家族につながりました。また、拠点には困り事も集まってきます。運営者の皆さんは声を受け、あおぞら相談会を開催しました。

2つめは「終の棲家」という住民どうしのたすけ合う実践です。高度経済成長期にできた集合団地で高齢化と共に転居が続いている地域があります。岐阜県各務原市の「ささえあいの家」です。ささえあいの家も新型コロナウイルス問題を受けて拠点を閉所せざるを得なくなりました。それでも一戸の困り事を電話で集め、支えられる人達で助け合っています。今、自分達に何ができるのかを考えマスクを手作りし配布しました。必要だと思われる人（92歳）に持っていくと、「よく来てくれた」と感謝されました。マスクを届けることは安否確認にもつながります。また、新一年生にも手作りマスクを配布しました。

3つめは新型コロナウイルスの影響で、留学生や技能実習生、日本に来たばかりの日本語学校の生徒たちが、アルバイトも仕事もできなくなり、生活に困り、孤立もしている人たちへの助け合いの事例です。「米、砂糖、サラダ油、マスクが欲しい」の声を聴き、教会と農家とお寺が協同して米を、瀬戸市の南医療生協の組合員がマスクを集めました。教会にはベトナムの留学生、技能実習生、教会に関連する学校の卒業生らボランティアが集まり94箇所126人への食料等の支援品の箱詰めが行われました。愛知県内の近隣は、手分けして持参し、その他の地域は、郵送や宅配便で届けました。

### 研究センター6月の活動

17日(水) 三河地域懇談会世話人会	24日(水) 尾張地域懇談会
22日(月) 市民講座運営委員会	27日(土) 第1回常任理事会
愛知の協同組合間協同相談会	

※ コロナウイルス感染拡大予防のため、予定していたさまざまな活動を自粛しています。

目次	第20回通常総会 開会挨拶	1	第20回総会(オンライン)企画	4
	第20回通常総会報告	2	持続可能な2040年にむかって	
	2020年度特定非営利活動法人		情報クリップ	6
	地域と協同の研究センター役員	3	書籍紹介	8

事例の最後、私が所属するコープみえ・生協でも大きな変化がありました。

ウイルスへの感染を避けるため、全国の地域生協の宅配事業の供給高が週120～150%に伸長しました。計画購入でありながら多くの商品が欠品し、組合員の暮らしに影響しました。また、新規加入の受付も一時中止せざるを得ない状況になりました。持続可能な消費と生産のあり方、必要な人に必要なものを分かち合うしくみ、組合員との情報の共有が、今後の課題となります。

組合員から「こんな時に配達してくれてありがとう」の声とともに職員にマスクが届けられる事例も生まれています。そして、各地域での議案検討会を始め、多くの組合員がつながる場・活動が中止となりました。様々な制約のなかでも、組合員が力をあわせ、新しいつながりを築き、誰一人取り残されることのない社会を共に創り出すことが生協に求められています。

この総会は、私も含めて新型コロナウイルス問題で会場参加が少なくなりましたが、多くの会員から書面議決が届きメッセージも集まりました。今日を新しい出発点として、会員どうしのコミュニケーションや会員の参加をひろげ、2020年度計画を共に実践しあうことを呼び掛けます。

(にしかわ こうき)

## 第20回通常総会報告

第20回通常総会を5月23日(土)に開催いたしました。当日は新型コロナウイルス感染防止に配慮し、対策をとりながら短時間で開催いたしました。

冒頭、司会者の谷口直人常任理事から、総会の出席者について、開会時点で153会員(実出席39名、書面表決者114名)となり、正会員249名(個人正会員229会員、団体正会員20会員)の過半数125名以上に達していることを報告があり、定款29条に基づき、第20回通常総会が開会となりました。

理事会からの推薦が承認され妹尾成幸会員、渡辺文人会員が議長の任につかれました。西川幸城代表理事のあいさつ(代読で紹介)の後、向井忍専務理事から、議案書に基づき第1号議案 2019年度事業報告と決算の提案があり、次に監事を代表して丹羽裕孝監事から監査報告書に基づき監査の報告がありました。引き続き向井忍専務理事から、第2号議案 2020年度事業計画と予算、第3号議案 定款の一部変更および総会運営規約の新設の件、第4号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件のうち、顧問委嘱承認の提案がありました。また書面による出席者からも多くの意見があり、向井忍専務理事から提案の中で回答しました。その後、質疑・討論に入りました。当日は会場からの発言希望はなく、議長は討論を打ち切って、向井忍専務理事がまとめを行い、採決を行いました。

第4号議案の理事・監事の選出について、役員選出管理委員の江本行宏委員から、第4回理事会で選出枠ごとの定数を決め、立候補受付の公示をしたところ、理事会からの推薦者として34名の理事立候補と監事からの推薦者として2名の監事立候補、1名の会員監事立候補があったことの報告があり、役員選考委員の仲田伸輝会員から、候補者名簿に基づいて立候補者の紹介がありました。役員選出管理委員の江本行宏委員から、役員選出規約第6条に基づき、「支持数の多い順に役員として選出される」ものとするとの選出方法の説明があり投票を行いました。投票の結果、役員選出管理委員の江本行宏委員が、理事及び監事に役員選出規約第6条に基づき選出枠ごとに役員として選出された候補者名を読み上げ、選出されたことの報告がありました。選出された役員は3頁の通りです。また、各議案の採決結果は次の通りです。

第1号議案 2019年度事業報告と決算承認の件 反対 1 保留 0 賛成 明らかな多数

第2号議案 2020年度事業計画と予算決定の件 反対 1 保留 2 賛成 明らかな多数

第3号議案 定款の一部変更および総会運営規約の新設の件 反対 1 保留 4 賛成 150

以上で議事が終了となり、この総会をもって退任する河原洋之理事から、新任理事を代表して鈴木稔彦理事から挨拶があり、第20回特定非営利活動法人地域と協同の研究センター総会は閉会しました。

【文責：事務局・大島三津夫】

## 2020年度特定非営利活動法人地域と協同の研究センター役員

5月23日(土)に開催いたしました第20回特定非営利活動法人地域と協同の研究センター通常総会で、第12期理事・監事が選出され、顧問委嘱が承認されました。その後6月6日(土)第1回理事会で代表理事・専務理事・常任理事・事務局長を互選しましたので報告します。今後とも皆様のご期待にそえるよう役員一同決意を新たに務める所存でございます。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。なお今総会におきまして代表理事西川幸城は退任いたしました。在任中賜りましたご厚情に対し熱く御礼申し上げます。後任の鈴木稔彦が代表理事として就任いたしましたので、なにとぞ前任者同様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 理事34人 お名前

代表理事	鈴木 稔彦	(コープみえ 理事長)
専務理事	向井 忍	(コープあいち 理事長スタッフ)
常任理事	伊串 徹	(コープあいち 尾張北ブロック ブロック長)
常任理事	小木曾 洋司	(中京大学現代社会学部 教授)
常任理事	佐藤 圭三	(コープぎふ 参与)
常任理事	妹尾 成幸	(コープみえ 組織活動推進部 部長)
常任理事	向井 清史	(名古屋市立大学大学院経済学研究科 特任教授)
事務局長	渡辺 勝弘	(地域と協同の研究センター 事務局)
	青山 武史	(全国大学生協連合会東海ブロック 事務局長)
	朝倉 美江	(金城学院大学人間科学部 教授)
	天野 真知子	(研究センター三河地域懇談会 世話人)
	安藤 信雄	(中部学院大学スポーツ健康科学部 教授)
	伊藤 佐記子	(コープぎふ 組合員)
	今泉 秀哉	(ひまわり農業協同組合 専務理事)
	江本 行宏	(とうかい食農健サポートクラブ 幹事)
	大坪 光樹	(コープぎふ 理事長)
	大戸 俊江	(コープみえ 理事)
	大原 興太郎	(三重大学 名誉教授)
	大村 洋子	(コープみえ 理事)
	岡田 俊介	(日本労働者協同組合連合会センター事業団・ 特定非営利活動法人ワークスコープ 東海事業本部 本部長)
	九鬼 紋七	(九鬼産業株式会社 代表取締役会長)
	近藤 充代	(日本福祉大学経済学部 教授)
	後藤 強	(社会福祉法人ゆたか福祉会理事・法人 本部長)
	田邊 準也	(地域と協同の研究センター)
	近松 香代	(コープぎふ 理事)
	長澤 真史	(東京農業大学 名誉教授、農業・農協問題研究所三重支部)
	成瀬 幸雄	(南医療生活協同組合 専務理事)
	野々山 大輔	(生協労連 コープあいち労働組合 副委員長)
	平光 佐知子	(コープあいち 副理事長)
	福井 千代子	(研究センター岐阜地域懇談会 世話人)
	堀部 智子	(コープぎふ 理事)
	森 政広	(コープあいち 理事長)
	幸松 孝太郎	(名張まちづくり研究所)
	渡辺 文人	(コープあいち 理事)
監事2人	中萩 勇紀男	(東海コープ事業連合 常勤監事)
	丹羽 裕孝	(コープぎふ 常勤監事)
顧問4人	高橋 正	(愛知大学 名誉教授)
	中嶋 好夫	(農業)
	野原 敏雄	(中京大学名誉教授 前研究センター長)
	水野 隼人	(全岐阜県生活協同組合連合会 名誉顧問)



## 地域と協同の研究センター 第20回 総会(オンライン)企画

## 持続可能な2040年にむかって 今までに見えてきたこと

文責：伊藤小友美（事務局）

2020年5月23日（土）地域と協同の研究センター第20回総会の記念企画をオンラインで開催しました。発信会場は生協生活文化会館（名古屋市）で、総会に参加された方のうち32名が現地参加されました。オンラインの申込は43人あり、参加が確認できた方は最大で35名でした。当日のタイムテーブルは以下の通りです。質疑、交流は会場参加の方だけでなく、オンラインで参加された方も交えて、有意義で濃密な時間を過ごすことができたことと好評でした。

13:00 「持続可能な2040年にむかって」

地域と協同の研究センター専務理事 向井忍

13:30 「持続可能な経済・社会をめざして」

これからの社会では、どのような方向が大切か  
名古屋市立大学大学院特任教授 向井清史

14:20 「第33回ICAソウル大会にむけて」

ICA設立125周年ソウル大会とJCAの取り組み

日本協同組合連携機構(JCA)主任研究員 前田 健喜

15:00 質疑及び会員近況交流 15:30 閉会



スクリーンに映し出されているのはオンライン参加者

## &lt;持続可能な2040年にむかって&gt;

地域と協同の研究センター専務理事 向井 忍

1980年、ICAモスクワ大会に向けて、カナダのレイドロー博士が「西暦2000年の協同組合」を執筆しました。そこで4つの優先分野、「世界の飢えを満たす協同組合」「生協的労働のための協同組合」「社会の保護者をめざす協同組合」「協同組合地域社会の建設」が提案されています。人口減少社会をレイドローの枠組みで考えてみましょう。減少の問題は、生まれる人数が減ることと、年齢を重ねて亡くなる方が増えることです。その交差点が2005年。今年生まれた赤ちゃんが80歳になるとき、日本の人口は半分になっています。東京圏一極集中は加速するばかりで、パンデミックでも苦勞されています。子どもを持たない、孫を持たない人が4割です。人口の減少が、地域を変えて行きます。

2040年、どういう社会の方向性を考えられるか。個人と社会がどう対応するか。もう一つの民主主義、多数決ではなく熟議で、文化的多様性を受け入れてコミュニティをつくることをこの間議論してきました。総会の企画の場でみなさんと考えたい、これまで私たちが考えてきたことが何だったのかを確かめたいと思います。人口減少社会に関わっていくつか議論してきた危惧する中身が、この半年の間に現れています。予想される変化に対して、現状を共有しながら次の課題を考えていきたいと思います。

## &lt;持続可能な経済・社会をめざして これからの社会では、どのような方向が大切か &gt;

名古屋市立大学大学院特任教授 向井 清史



向井先生

◆◇何が問われているのか 「閉ざされた個」から「開かれた個」へ◇◆

私はこれからの社会の方向は、閉ざされた個を社会や自然に向け開いていく—閉ざされた個を開いていくことで「持続可能な社会への展望」が生まれると考えます。「閉ざされた個」というのは、他者、自分以外のものを自分の目的のための手段として考える、そういう個人のことを言います。他者を自己目的の実現のための手段にするという、人を陥れるようなイメージになるかもしれませんが、そういうことを言っているのではなく、たとえば、今日魚が食べたいと思って魚を買うとき、魚を買う行為は、自分の魚が食べたいという目的を実現することです。魚を獲っている人たちやその背後にいる人間の関係に思いが及ばない。ただ自分が目的とすることを実現することにこだわって行動している。こういうの

を「閉ざされた個」と言います。それは普通の近代社会の人間です。

それに対して、逆に「開かれた個」というのは、その逆で、他者に立場変換（身を置き換える）できる共感力を身につけた個人です。バラバラになった個人にとっての最適が、必ずしも社会にとっての最適ではありません。これまで自立した個人と黙約的国家という形で認識してきた現代社会が壊れていって、そういう社会観では対応できない時代になっているのが現在の姿です。

#### ◆◇ なぜ近代では個が閉ざされてしまうのか ◇◆

今の市場社会は、社会貢献を金額という形で表現しています。しかも、いったんは金額で表現されるのですが、本当の価値はというとその時点では確定しません。実際に売れて初めて価値があり、金額表示も正しかったし、社会的に貢献したとなります。誰にも買われなかったら社会貢献はゼロということになります。我々の社会貢献は二重化されています。まずお金で表現されるプロセス、それから買われるかどうかという二重のプロセスで成り立っているわけです。この二重のプロセスが我々の認識を逆転させてしまう可能性を持っています。なぜかというと、社会性がお金によって表現されているからで、実は価値は社会貢献にあります。表現形態が買われるかどうかとなっているので、価値はお金で測られるのが当たり前になっています。

#### ◆◇ 協働社会への途 ◇◆

人口減少、高齢化、地域社会の経済力の低下ということで、国が国民に対してできることは極めて少なくなっています。今、コロナでどんどん国はお金を国民に直接必要だから交付しているわけですが、これは借金です。将来に問題を先送りしている形です。そういう関係の中で、これから我々はどうすればより豊かな社会を目指せるかということ、潜在的な資源としてある社会関係資本と呼ばれるもの、信頼とか連帯というもの、市場化されていないものですが、これから我々の社会を維持していくためにはそういうものに頼らざるを得ません。

生協の固有の役割は、自治体でもない、コミュニティでもない、独自の役割を担っているということを確認しながら、地域社会をつくるリーダーとしてがんばっていただきたいと思っています。

### <第33回 ICA ソウル大会にむけて> 日本協同組合連携機構（JCA）主任研究員 前田健喜

ICA100周年のマンチェスター大会（1995年）で、「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」が承認されました。定義、価値に加え7つの原則で構成されています。中でも第7原則、「地域社会への関与」は注目されています。すべての原則に「組合員」が入っています。ここでレイドロー報告以来15年にわたる協同組合の基本的なあり方に関する国際的な議論は一応の決着を見ました。そして世界の多くの協同組合が、協同組合のアイデンティティの実践を通じて活性化し、協同組合の株式会社化（脱協同組合化）の波は止まりました。

2020年がICA設立125周年・ICA声明25周年にあたります。記念大会をソウルで開催することとなりました（2021年3月1～3日に開催予定）。1992年の東京大会以来アジアでは2回目の開催となります。テーマは「我々の協同組合のアイデンティティを深める」です。協同組合のアイデンティティを深く理解し、協同組合のアイデンティティが、感染症、気候変動、紛争と暴力、富の不平等、男女格差、仕事をめぐる課題など、世界的課題にどう対応できるかを示すことが大事だと考えています。また、協同組合のアイデンティティが持つビジネス上の優位性を明らかにすることも大切です。協同組合全体で取り組む機会はありませんので、ソウル大会に向けて、SDGs貢献について、今年日本で取り組みたいと考えています。

マルチステークホルダー協同組合は展望できるのか。その場合の参加のあり方はどうなるか。組合員の参加のあり方、民主的運営 組合員参加拡大は永遠のテーマです。IT活用、それによってどう意識が変わるかも重要です。新型コロナ感染症のため、人と会うことが避けられています。この先どうなっていくのでしょうか。協同組合は組合員のための組織ですが、組合員がくらす地域社会、基盤になる地域社会を見ないといけない。そうすると、生産のあり方や制度を変えていくことは必要なこととなります。

「小さな協同」の振興、既存協同組合による支援、協同組合以外のステークホルダーとの連携等の課題もあります。新型コロナ感染症拡大に伴い、協同組合のアイデンティティは、ますます重要になると思われます。

# 情報クリップ



**co-opnavi 2020.6 No.819**  
**職場でのダイバーシティ（多様性）推進に向けて**  
**日本生活協同組合連合会 2020年6月、A4判、36頁、367円**

- ＜コープ商品のある風景＞  
コープ商品ミュージアム  
運営委員 鈴木朋美さん 中川祥子さん
- 特集 職場でのダイバーシティ（多様性）推進に向けて**
- ＜今日も笑顔のコープさん 生協の仲間のお仕事拝見＞  
ララコープ 小山健太さん
- ＜想いをかたちに コープ商品＞  
CO・OPくつつかないホイル
- ＜生協大好きママコプ山さんの 教えて！CO・OP商品＞  
CO・OP国産大豆のドライ納豆
- ＜商品と向き合う私たちの仕事＞  
惣菜商品開発 ユーコープ
- ＜ZOOM IN 生協の店舗づくり＞  
コープあおもり 和徳店
- ＜日本全国 宅配現場におじゃまします！＞  
コープさっぽろ
- ＜組合員の助け合い活動＞  
富山県生協
- ＜SDGs REPORT＞  
生活クラブ連合会
- ＜明日の暮らし ささえあう CO・OP共済＞  
おおさかパルコープ
- ＜この人に聴きたい＞  
コミュニティワーカー  
西川 正さん
- ＜ほっと navi＞  
大阪いずみ市民生協  
日本生協連

**月刊JA 2020.6 vol.784**  
**全国農業協同組合中央会 2020年6月、A4判、48頁、年間予約5,204円（消費税込）**

- スゴイ農業、スゴイJA**
- JA自己改革の現場から**  
農協理念とSDGsの相関  
ー JAふくしま未来（福島県）の取り組み  
阿高あや
- JA・農政トピック**  
新型コロナに負けるな  
「みんなのよい花プロジェクト」  
JA全中 広報部広報課
- きずな春秋——協同のこころ——  
童門冬二
- 私のオピニオン  
伊藤亜由美
- 展望 JAの進むべき道  
JAグループ業務・システムの統一化  
山田秀顕（JA全中常務理事）
- 自著紹介 『宮脇朝男の生きざま』  
政財界に挑みながら、多くの改革を遂行した元全中会長  
須田勇治
- 海外だより [D.C.通信] 連載108  
新型コロナウイルスによるアメリカ食肉供給への影響  
伊澤 岳
- クリエイターの食と農  
島本理生
- 第33回 広報活動優良JA紹介  
総合の部 準大賞 JAにいがた南蒲（新潟県）

**生活協同組合研究 2020.6 Vol.533**  
**医療生協の最新動向と身近なつながりの重要性**  
**公益財団法人 生協総合研究所 2020年6月 B5判 80頁**

- 巻頭言  
新型コロナウイルス感染拡大とDV 戒能民江
- 特集 医療生協の最新動向と身近なつながりの重要性**  
日本の医療政策の方向性を考える  
ー医療の質向上のための財源確保へー 尾玉剛士
- 医療福祉生協の近年の動向と今後の可能性  
ー2030年ビジョンのキーワードを中心にー 江本 淳  
分断する大都市と近隣関係 川野英二
- 事務所から離れた地域における活発な組合員活動の事例
- ー福山医療生協神辺支部ー 山崎由希子
- コラム  
「医療福祉生協の班会に参加する組合員の健康度調査」  
の結果から 齋藤文洋
- 資料：医療福祉生協の2030年ビジョン  
（日本医療福祉生活協同組合連合会）
- 連載 協同組合系研究所の逐次刊行物より⑯  
農林中金総合研究所『金融市場』 原山浩介

■継承・発信 平和の取り組み ⑦

～平和なくらしを子どもたちに引き継ぐために～

「6.23 ファミリーピースウォーク」 玉城尚子

■新型コロナウイルスへの各国生協の対応 ②

イタリアの生協と COVID-19 天野晴元

スペインにおける COVID-19 と 2 生協の対応 鈴木 岳

■研究と調査

新型コロナ感染予防体制下の生活変化

一家計の長期データ及び組合員モニターアンケートより

近本聡子

■本誌特集を読んで (2020.4) 倉貫浩一・島崎安史

■文献紹介

高柳彰夫・大須正明編『SDG sを学ぶ』 小塚和行

■私の愛蔵書

賀川豊彦 『復刻版 死線を越えて』 鈴木 岳

■研究所日誌

●第 18 回生協総研賞「助成事業」の応募要領 (抄)

**文化連情報 2020.6 No.507**

**コロナショックがあぶりだす日本の課題**

日本文化厚生農業協同組合連合会 2020 年 6 月、B5 判、80 頁、文化連情報編集部 03-3370-2529

続く新型コロナウイルス対策と厚生連医療の課題

東 公敏

『共同購入ビジョン (協同の構想)』を会員参画で策定  
中長期を展望して実質スタートへ!

伊藤幸夫

日本文化厚生連第 25 回臨時総会を開催

第 9 次中期事業計画を決定

二木教授の医療時評 (180)

コロナ感染爆発のアメリカの大統領選挙と

医療政策への影響を複眼的に予測する

二木 立

新連載 アフガニスタンからみた世界と日本 (1)

混沌状態に陥っている世界情勢と

アフガニスタンの和平協議

レシャード カレット

新基本計画の諸論点 ①

コロナショックがあぶりだす日本の課題

田代洋一

ドイツの対 COVID-19 戦略

感染拡大抑制策

吉田恵子

学びを通じた協同組合運動の実践

～JA はだの組合員教育事業～

三瓶壮文

組合員・住民の主体的な動きから始まる協同組合間協同

～協同組合間協同の歴史と今後について～

前田健喜

多様な福祉レジームと海外人材 (26)

新型コロナウイルスと外国人住民の雇用

安里和晃

臨床倫理メディエーション (42)

感染予防に潜む倫理—COVID-19 感染流行 (2) —

中西淑美

野の風

●アロハな島へおいでませ!

榊谷優子

デンマーク & 世界の地域居住 (132)

地域と一緒に

その人の力・希望・関係性をまるごと支える

「いくのさん家 (げ)」(鳥取県鳥取市 1)

松岡洋子

熱帯の自然誌 (51) フタバガキ林の減少

安間繁樹

ドイツの介護保険制度 (9)

ディアコニスタチオン・フランクフルト・アム・マイン (1)

教会の歴史と在宅介護

小磯 明

□自著を語る

まちづくりの福祉社会学

これからの公民連携を考える /

杉岡直人

アメリカの医療政策と病院業

—企業性と公益性の狭間で— /

高山一夫

□DVD 紹介

外国人収容所の闇 クルドの人々は今

▶線路は続く (143)

マイレールの夢

錦川鉄道 /

西出健史

▶最近みた映画

天国でまた会おう /

菅原育子

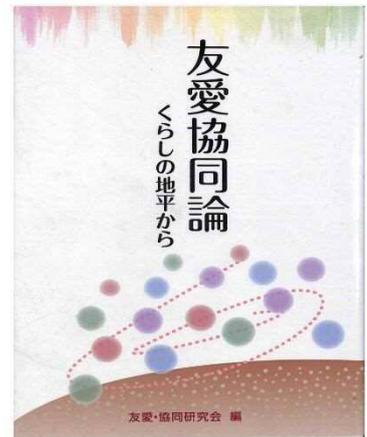
▶虹のかけ橋

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介

「友愛協同論—くらしの地平から—」

野原敏雄先生（研究センター顧問）の書籍「友愛と現代社会」の出版を機に、あらためて友愛・協同をキーテーマに8年間、研究者・実践家で論議してきました。その集大成としてこの度この書籍を発売いたしました。



序章 友愛・協同の原理と現代社会	橋本吉広
<b>第Ⅰ部 友愛・協同の歴史・現在・近未来</b>	
第一章 協同組合のアイデンティティと地域・社会の持続可能性	向井忍
第二章 労働・社会・文化の変革と自由・平等・友愛の一体的復権	向井忍
第三章 相互扶助の系譜と協同組合～法制化と「小さな協同」のアウトライン～	熊崎辰広
<b>第Ⅱ部 「超高齢少子社会」と友愛・協同</b>	
第四章 老いの生きがい、と（生活協同組合運動の思い出）	田辺準也
第五章 超少子高齢社会の高齢者福祉を考える 妻の介護経験を踏まえて	野原敏雄
第六章 「ひなたぼっこ」と地域共生社会～友愛と協同を育む現場の力～	斎藤啓治
<b>第Ⅲ部 地域社会と友愛・協同</b>	
第七章 南医療生活協同組合における、多様な組合員活動の意味さがし～デュルケム社会学の視点から～	仲田伸輝
第八章 友愛・協同のまちづくりを願って～奥三河、山の湊しんしろからの発言～	八木憲一郎
第九章 田園都市論・持続可能なまちづくり～「いわむら田園都市協会地域支え合い」の取り組み～	古田豊彦
第十章 価値観の転換へ～研究ノートのためのメモ～	田中義二
終章 あとがきに代えて	野原敏雄

【連絡先】友愛・協同研究会—名古屋市千種区稲舟通1-39

特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 気付

本の申し込みは e-mail: [tj6y-hsmt@asahi-net.or.jp](mailto:tj6y-hsmt@asahi-net.or.jp) で橋本まで申し込みください。

郵送でお届けする場合は、本と一緒に郵便振替用紙を同封しますので、振り込みください。

友愛・協同研究会編定価 本体 1,500 円+税

地域と協同の研究センター7月の予定

2日(木) 全国連携組織交流会議	17日(金) 「豊橋生協会館へ寄りまいかん」実行委員会
3日(金) 組合員理事ゼミナル世話人会	三河地域懇談会世話人会
4日(土) オンラインピースリレー&講演のつどい	18日(土) 東海交流フォーラム実行委員会・第2回理事会
8日(水) 2020協同組合デー記念行事 in 愛知	23日(木) 第1回協同の未来塾
15日(水) 第2回常任理事会	

企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。